

# 福島国際共同大学院大学の誘致を目指せ!!

## このままではフクシマが消える

安倍総理は東京オリンピックの誘致に向けて「東京は安全。原発は完全にコントロールされている」と世界に発信した。実態はどうなのだろうか。汚染水の流出はコントロール不能であり、東京電力福島第一原子力発電所の収束作業は先の見えない

最悪の事態に陥っていることは周知の事実である。

安倍総理の発言は、民主党政権時代、当時の野田総理が「原発事故は収束した」と発言したことと大同小異である。民主党が国民から見放された理由の1つは、まさにこれだった。事態の深刻さに気付いた安倍総理は、すぐに福島県を視察、汚染水の処理と廃炉を国の責任で行うと明言した。

これらを進めるために、近々、東京電力や日本の大手原子力関連企業を母体にした、汚染水の処理や廃炉に向けた大規模な研究機関を檜葉町に設置する意向と言われる。確かに朗報だが、これだけでは極めて不十分である。フクシマの未来は汚染水

と廃炉で黒雲に覆われている。この事態をはねのけるには、世界の英知を集め、未来に羽ばたく福島国際共同大学院大学（仮称）の設置が不可欠である。

キャンパスは郡山市内に本部を置き、猪苗代湖周辺に展開、世界の医聖野口英世の生家と合わせ、福島から世界へ最先端の研究成果を発進、世界の発展と平和に寄与する国際的大学院大学である。提唱者はNPO法人フクシマ未来戦略研究所で、郡山市役所、郡山商工会議所とともに一大運動を展開する。

### ●モデルは沖縄

沖縄振興を掲げて沖縄科学技術大学院大学が開学したのは2012年9月である。

すでに福島県議会のふくしま未来ネットワーク（高野光二会長、議員数6人）と郡山市議会の新政会（橋本幸一会長、議員数9人）が沖縄を



東北大学正門

訪れ、この大学院大学を視察した。「フクシマのシンボルとして、これは欠かせない」と会派をあげて福島への誘致に動こうとしている。

県議会議員の本田朋氏は「復旧・復興の要は教育と学問の研究。人材を育て、世界最先端の技術を世界に発信することだ。それがフクシマの使命」と語る。郡山市議会議員の佐竹伸一氏も「キャンパスは猪苗代湖南、湖越しに磐梯山が見える。沖縄以上の景観であるこの場所に内外の研究者と学生を集め、復旧・復興のシンボルタワーを建設する」と夢を披露する。

沖縄科学技術大学院大学とはどんな



沖縄科学技術大学院大学（写真提供・OIST）

な大学院なのか。

設置に向けた歩みは、2001年に尾身幸次内閣府特命担当大臣（沖縄・北方対策、科学技術政策担当）が沖縄に国際的な大学院大学を設置する構想を提唱したことに始まる。その後、構想検討会及び国際顧問会議における検討を経て、2002年5月、沖縄復帰30周年記念式典において、小泉純一郎総理が設置構想の推進を表明、沖縄振興施策の柱の1つに位置付けられた。2003年4月には大学院大学の建地として恩納村が選定され、建設が始まり、学校法人沖縄科学技術大学院大学学園が設立された。建設費は約1000億円、年間100億円の助成金が出ている。大学院を運営する理事会はノーベル賞受賞の科学者、沖縄振興に係る有識者、大学経営に係る有識者等の学外理事で構成されている。

理事長・学長はジョナサン・ドーフアン博士（元スタンフォード線形加速器センター所長）、副理事長・上級副学長はロバート・バックマン氏（元米国立衛生研究所・国立神経疾患・脳卒中研究所副所長）で、日

本人は元文部大臣、東大総長の有馬朗人財団法人日本科学技術振興財団会長、黒川清東京大学名誉教授・元内閣特別顧問らが加わっている。研究分野は神経科学、分子・細胞・発生生物学、数学・計算科学、環境・生態学及び物理学・化学の5つの中核分野を基礎とする先端的な研究で、5年一貫教育の博士課程で毎年約20人前後の学生を受け入れる。

1期生は34人で、うち日本人は5人。アジアからは中国、インド、パキスタンなどの12人、米国からは3人、欧州からはドイツや英国などの9人、アフリカ・中東からはエジプトなどの5人、女性は10人。

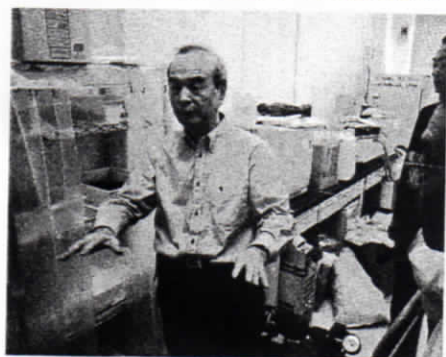


東北大学震災復興推進担当・原教授と面談

フクシマが置かれる状況は、沖縄と同じように厳しく暗い。小泉総理にならって、安倍総理の決断にすべががかってる。

## ●東北大学を核に

沖縄はアメリカのノーベル賞受賞者を核に据えたが、フクシマ未来戦略研究所としては「世界に開かれた共同体としての東北大学」をビジョンに掲げる東北大学を核に、東大、京大、大阪大、名古屋大、九州大、北海道大、東工大、一橋大、早稲田大、慶應大、同志社大などをはじめ、福島大、福島医大、会津大、日大工学部など県内の各大学の英知も結集。



東北大学大学院工学研究科量子工エネルギー工学専攻の石井教授

これにアメリカ、ヨーロッパ、ロシアなどの協力も仰ぎ、大学院にすべきと提言している。

この9月には、郡山市の吉崎賢介副市長、箭内研一総合政策部長、郡山商工会議所の大槻順一顧問、内藤清吾副会頭、東北大学郡山地区同窓会・郡山青葉会の富田孝志幹事長、フクシマ未来研からは星と佐竹が出席。東北大学本部で同大震災復興推進担当、大学院工学研究科教授の原信義理事と面談し、同大の世界戦略や大学の国際化、世界をリードする研究拠点、社会変革のエンジン構想など里見進総長の「里見ビジョン」を聴いた。同大側も郡山の構想に理解を示した。

その後、大学院工学研究科量子工エネルギー研究の石井慶造教授の研究室を訪ね、除染問題をうかがった。フクシマ未来研では郡山市、郡山商工会議所と共同で、文部科学省、経済産業省、復興庁などにも陳情、福島県ももちろん猪苗代町、会津若松市にも呼びかけ、運動の和を広げる考えである。本県選出の根本匠復興大臣には特段の期待を寄せている。